

能登半島地震を正月元旦に経験して、改めてわが国の災害の厳しさを感じ取り、その後日本列島での相次ぐ地震の発生などを見ていると、「とんでもない脆弱な国土を預かってしまったわれわれだな」という思いを強くしている人も多いだろう。

なぜ歴史を学ぶとともに、国土を理解しなければならぬのか

他国とは比較にならないほどに日本国土は厳しい条件を有している。それがわれわれの活動を制約したり、コストがかかるものになっているのだが、これを理解しなければインフラの意味も建設業の存在意義も十分に理解できるものではない。

その対比に「なぜ歴史を学ぶのか」を考えてみよう。簡単に言えば、歴史を学ぶのは、日本人の来し方を振り返り、今日を開いてくれた人びとに感謝しながら、明日に繋いでいくものを見失わないようにするためと云える。

縄文時代の昔から今日まで延々

まず、国土条件だが、ドイツやフランスなどの国土を思い浮かべながら、以下の様子を考えていただきたいのである。

① 国土が海峡によって大きく四つに分断されている上に、多数の島嶼部を抱えている。

② 陸上部が南北二、〇〇〇キロメートル、東西二、〇〇〇キロメートルと極めて細長く、最大幅はわずか約三〇〇キロしかない。

③ 細長い国土全体に標高二、〇〇〇メートル級の脊梁山脈が縦貫している。これが国土を雪国と非雪国に分け、さらに南北東西の連絡を困難なものにしている。また、河川はほとんどがこの山脈から発しているから、延長が短く上に急流である。だから急激な水位上昇が頻発する。

④ 平野は山岳部の盆地と河川河口部にしか存在せず、極めて分散的ですが小さい。

⑤ 国土面積の七〇％が山岳部であり、可住地面積が国土面積に比べて極めて少ない。

⑥ 氷河時代に大氷河が国土全体を

国土学という考え方

国土学アナリスト 大石 久和 Hisakazu Ohishi

下言上用

Kagen
Jouyo

と紡いできた糸を、現世代で断ち切ることは出来ないとの思いや誓いを確かなものにするために、歴史認識を高めるのである。

そこには当然、日本人とは何か、それはユーラシア人などどのような異なるのかを見つめていくことが重く含まれている。明治以前(特に古墳時代以降)には日本は、ほとんど日本人だけで糸を紡いできた。ロマンに満ちた戦国武将の活躍などは、すべて現日本人を作ってきたものであるから、その物語にのめり込んで、今の自分を自覚するのだ。

だから、歴史は人びとの心を打ち、小説などに姿を変えて何度も訴えかけてくるのだが、それで日本人を理解できたことになり、それでわれわれの自覚と覚悟に結びつくのかと言え、それだけではかなり疑問だと考える。

建設業に携わるわれわれは、建築や土木によるインフラ整備を行ってきたから国土の厳しい自然条件を熟知しているし、地籍調査の未了(先進国で唯一)も含め土地利用の複雑さ、用地取得の困難さなどの社

会条件についても悩みながらだが承知している。

この自然条件や社会条件の厳しさは、日本人の生存領域の確保を極めて厳しいものに行っているが、さて、この厳しさをわれわれは理解しているのだろうか。もし理解できているのなら、世界の政治首脳の中で日本の政治家だけが、インフラ整備の重要性についてまったく発言しないことに、国民から異議申し立てがなければならぬはずだと考える。

小中学校の時代から日本地理を学び、日本の国土については多くの人が自分は熟知していると考えている。しかし、それは「日本の」国土の有り様についてにとどまっていることが多い。

つまり、日本国土は、少なくともヨーロッパ、中国、アメリカなどの国土との比較がなければ、理解できないのである。そこで、こうした国や地域を頭に置きながら日本の国土を眺めてみよう。

世界との比較で理解する日本の国土と自然

覆うことがなかったために、氷

河融解時に土砂が山地に残されて、山岳部はすべて大雨に遭うと土石流を引き起こす風化岩で構成されている。

⑦ 大都市のすべては縄文海進以降の河川からの流出土砂上にあり、それは軟弱地盤である。岩盤の大地に広大な平野(可住地)を有し、悠然と流れる大河を一つの円や正方形に近い形の国土に持つ西欧諸国を思い浮かべて欲しいのだ。

次に自然条件を見てみよう。

① 地震の常襲地帯に日本列島は存在している。世界の地上面積の〇・二五％しかないこの国土にプレートが四つもせめぎ合っていて、世界中で起こるマグニチュード六以上の大地震の二〇％が日本で起こっていると言われる。

② 豪雨も厳しいものがあり、平均的に多雨であることは稲作にはありがたいが、梅雨と台風が集中的な豪雨を局地的に頻繁にもたらし、毎年のように河川氾濫

を引き起こす。

③ 台風の通り道に沿うように列島が存在しているため、豪雨とともに強烈な強風が毎年何度も日本列島を襲って来る。それは、大陸からの猛烈な強風である偏西風がこの台風の軌跡を生んでいるからで黄砂が日本を襲う原理ともなっている。(なお、この偏西風の直上流の九州のすぐ先に、韓国や中国の原発が「銀座」と言われるほどに林立しているが、これにマスメディアも原発反対派もまったく関心を払わないのは、不思議なことである。)

④ 豪雪が襲うことも厳しい自然条件である。シベリア寒風と温暖な対馬海流の存在が、脊梁山脈の北側や西側に豪雪をもたらす。この積雪寒冷地域は国土の六〇％にも達する。冬ごもりで豪雪をやり過ごした時代から、冬期も活発な経済などの活動を行わなければならない時代には、豪雪との戦いは命を賭した戦いともなる。